

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の道徳の未来へバトンをつなぐ



令和元年9月発行
西部教育事務所

東中筋小学校の挑戦!!「ユニット化で深める」第2弾

今回は、8月26日(月)に四万十市立東中筋小学校で行われた教材研究会の様子を紹介し、本校の重点指導項目である「善悪の判断、自律、自由と責任」の中の「自由と責任」に焦点を絞り、教材のユニット化によって深めていくという挑戦をします。



西部管内の
講座関係のHP

【提案内容】小学校6年「頂上はすぐそこに (A1 自由と責任)」

【授業者】 堀岡 知世 教諭 (四万十市立東中筋小学校)

本時の提案

今回は、「自由と責任」をテーマに三つの教材を連続して配列し、その3回目を授業づくり講座の授業に設定しています。



堀岡教諭

【ユニット構想】

自由という名の席 (C-12)	誰もが気持ちよくすごせるようにするには、どんなことに気をつけなければならないか
自由だからこそ (A-1)	自由だからこそ大切にしないといけないものは何か
頂上はすぐそこに (A-1) 本時	自由だからこそ考えなければならないことは何か

ユニットの三つの教材を関連させて児童に考えさせることで、児童の「自由と責任」についての捉えが多面的・多角的に広がっていくのではないかと。1回目、2回目の学習と比べながら児童が「自由と責任」についての考えを深めていける発問展開について提案し、意見をいただきたいと思ひます。

模擬授業・協議

中心発問の前に、下山について迷ったところでもっと話をさせればよかった。

途中まで読んで、「私はどう決断するだろうか。」と聞き、登頂するかどうかを考えさせた後、「なぜ下山を決断したのだろうか。」を話し合うのはどうか。

中心発問は、「なぜ振り返らなかったのだろう。」の方がよい。その方が周りのことを考えた「責任」についての話し合いができる。

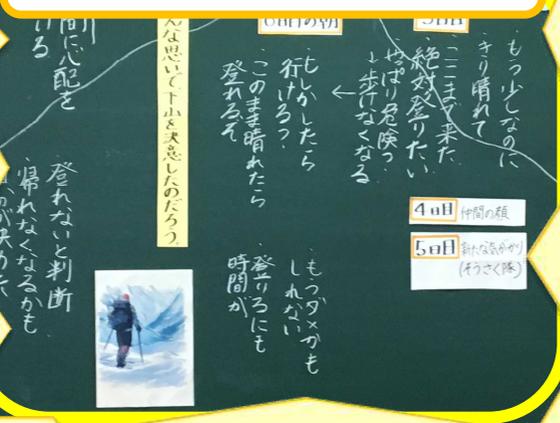
「すぐそこに頂上があり登頂するチャンスだったのに、下山を決めた私に迷いはあるか。」と聞くのはどうだろうか。

中心場面で児童により考えさせるにはどのような発問展開にすればよいか。

それまでの発問で「その時の思いは？」と繰り返し聞かれて、中心発問でも「思い」を聞かれると、もう言い尽くしていて答えにくい。主人公はいろいろなことを考えて下山を決めている。その時の「考え」を言わせるといい。

中心場面では、決断とともに、その後どんな結果が待っているのかも考えさせたい。例えば、①登頂したら②そのまま下山したら③登頂してすぐに下山したら…など。

題材が児童から遠い話なので、「自分だったら」と考えさせる場面がほしい。中心発問では、「二度と振り返らなかったのはなぜか」と聞くと、「責任」についての考えが深まるのではないかと。



「単独登山を決めた自由」と「下山を決めた自由」を比べる方法もあるのではないかと。

講師：高知大学 森 有希 准教授による指導・助言

◎ユニット「自由と責任」を生かす3回目の授業としては、「危ないときには引き返そう」で終わらせず、その先を考えさせよう。(指導の要点と発問の設定)

【本時の指導の要点】を

自分の意思で考え判断しなければならない場面での葛藤やその後の影響を考えることなどを通して、自由に伴う責任の大きさについて考えを深めさせる。

と設定すると発問は… (◆は問い返し発問の例)

【登場人物の心情変化に着目した発問】

二度と振り返ることなく下山しているときの私の思いは？

◆自分が本当にやりたいことができるように単独行動をしたのでは？

◆ここまできっぱりと決断したのは何が決め手だったか。◆責任ばかり考えていると挑戦できない？などが考えられる。

「自由に伴う責任」とはどのようなものかを児童一人一人がじっくりと考えられるよう、教材への時間のかけ方と発問量を考え、時間配分をすることが必要である。また最終的には、責任ある行動の判断理由に「自分の命を大事にし、自分で決断することの大切さに気付いたから」ということを児童自身が加えてくれると、さらに考えが深まったといえる。

【道徳的な問題に着目した発問】

自由と責任の関係はどのようなものか？

◆自分で責任がとれるなら何をするのも自由では？

◆責任が生じるなら自由はあまりいいものではない？



森 准教授

【自分の授業に生かしたいこと】参加者のリフレクションシートから

- 学習指導要領にある道徳科の目標と各学年の内容項目を理解することが大切だと感じた。教材とその道徳的価値がどのような学習のために位置付けられているのか、必ず確認しようと思った。
- 子どもたちが理解しやすいよう、単元の構想から練り直して授業づくりをしているというのが新鮮だった。どの流れが子どもに落ちやすいか、どの発問だとねらいに迫れるのか、考えがたくさん聞けてよかった。
- 森先生の講話から、本当に大事なところに時間をかけるためには、大胆な構成も必要だと改めて感じた。
- 道徳の授業についてみんなで考えることは楽しいと改めて思った。生徒と共に生き方について考えていける授業づくりをしたい。とてもいい会だと思う。

今回の授業づくり講座(教材研究会)の参加者は50名(参加学校数28校)におよび、たくさんの先生方のご意見のおかげで、今回も学びの多い研修会になりました。授業研究会には、いただいたご意見を整理して、堀岡先生らしい授業を児童と共につくってきたいと思います。次回が今年度最後の道徳科授業づくり講座です。たくさんの先生方と一緒に、道徳科授業について学びませんか。

次回：10月1日(火) 13:25～東中筋小学校玄関受付 14:00授業開始(6年教室)

【学習指導要領解説 特別の教科道徳編】「小学生の道徳6(あかつき)」持参